

## 研究課題

たくましく生きる心と体を育む  
健康教育と校長の在り方

## I 趣 旨

社会環境・生活環境の変化は、人々の生活様式に大きな影響をもたらしたばかりでなく、子どもたちの心身への影響も大きく、体力・運動能力の低下をはじめ、ストレスや肥満傾向の増加、生活習慣病への危険性の高まりなど、様々な健康問題を引き起こしている。また、日常生活が便利になったことにより、基本的な生活習慣や食生活の乱れなどの問題も生じている。

こうした状況の中で、子どもたち一人一人に健康についての関心を高め、健康であることの意義を認識させるとともに、自らの健康を適切に管理し改善する能力を養うことは重要な課題である。

また、子どもたちが健全な食生活を営むことは、健康で豊かな人間性を育てていく基礎となることはもちろんのこと、今後とも、我が国が活力と魅力にあふれた国として発展し続けていく上でも大切であり、食育の重要性が大きく叫ばれるゆえんでもある。

これらのことを踏まえ、学校での指導とともに、各家庭やPTA及び地域の役割を明確にするなど、学校・家庭・地域の密接な連携・協力が必要と考える。本分科会では、健康教育や食育を推進する具体的方策を明らかにする。

## II 研究発表及び協議

## 1 研究発表

「健やかな心身を育成する  
健康教育の推進と校長の指導性」  
釧路市地区 釧路市立湖畔小学校 塩住 啓介

## &lt;今年度の調査研究&gt;

- (1) 望ましい生活習慣づくりに関する調査実施
  - ①「生活リズムチェックシート」等の活用について
  - ②地域や家庭、関係機関と連携した取組について
  - ③校長の指導性・リーダーシップについて
- (2) 食物アレルギーをもつ児童への対応

- ①実態把握と具体的な対応について
- ②校内研修の実施と関係機関との連携について
- ③校長の指導性・リーダーシップについて

## 【視点1】

「心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進」  
<健康・体力向上に関わる3か年の成果と課題>

- (1) 指導計画の作成と校内体制の活性化
  - ①健康・体力づくりの全体計画や指導計画の作成は全校で整備が進められてきた。今後は教科等の横断的な指導計画やより系統的な指導計画の作成を進めたい。
  - ②校務分掌の中に健康・体力づくりを推進する係が位置付けられ、実態調査や体力テストを計画し、推進する校内体制が整ってきている。
  - ③全校で体力テストを全種目実施し、実態把握が進んだ。結果の分析により、課題を全校で共有し、各学年、各学級での具体的な指導につなげることができた。
- (2) 体育授業の工夫改善と教職員の意識高揚
  - ①児童の実態や体力面での課題を踏まえた準備運動や補強運動を取り入れた体育授業の工夫が見られた。
  - ②児童の実態を踏まえた具体的な目標について共通理解を図り、体力向上プランや学年・学級経営案に位置付け、それが具体的な取組につながってきた。
  - ③校内研修に関係機関から外部講師を招き、児童の実態に応じた準備運動や補強運動の工夫を学び、日常の体育授業に生かすことができた。
- (3) 体力向上推進の取組
  - ①体育の研修講座が重点化され、全校に授業改善の工夫や体力テストの取組方法等が還元されている。
  - ②体力テストの結果を記録化・可視化し、個人の運動への意欲を喚起している。
  - ③日常的な活動を継続するための活動時間を保障したいが、日課表にも時間的な余裕がない。
- (4) 健康・体力向上に関わる校長の指導性
  - ①健康教育を学校経営の基本方針の重点に位置付け、全体計画や指導計画の作成を推進した。また、校務分掌に担当係を設ける等の体制づくりを進めるとともに釧路市教育推進基本計画の数値目標に対する自

校の進捗状況を全教職員で確認し、取組への意識化を図った。

- ②指導技術スキルアップ研修の実施の働きかけ、体育専科教員の配置、先進事例を学ぶ研修会への職員派遣などにより、授業改善や環境整備につなげている。
- ③体力向上の取組や体力テストの結果等を保護者や地域に公表し、運動や体力向上への関心を高めた。

## 【視点2】

### 「望ましい食習慣の形成を目指す食育の充実」

#### <食育の充実に関わる3か年の成果と課題>

##### (1) 食物アレルギーをもつ児童への対応

- ①各学校では、緊急対応が必要な児童について全職員への周知を図るとともに、該当児童への学校の対応について保護者に確認を行っている。さらに、必要に応じて学級内の児童への周知も図っている。
- ②緊急時対応マニュアルを策定するとともに、外部講師を招き、症状と原因、エピペン使用等の対応について研修を進めている。

##### (2) 食物アレルギー対応に関わる校長の指導性

- ①各学校では、食物アレルギーに対応する校内委員会の設置等、組織的な対応を進めようとしている。
- ②該当児童の把握や対応の手順を明確にする校内研修の実施、危機管理マニュアルの策定・見直し、事故・事例の共有、保護者・関係機関との連携に向けた取組を進めている。
- ③学校生活管理指導表は十分に活用されているが、今後は学校生活全般において、保護者と担任が緊密な連携をとる必要がある。

##### (3) 食育教育の組織的な推進

- ①食に関する指導の学年別指導計画や横断的な指導を行うための教科、特別活動、総合的な学習の時間等との関連を図った全体計画の作成と改善を進めている。
- ②栄養教諭が配置されている学校では、担任教諭との打合せ時間を計画的に確保しながら、食に関する授業につなげていくための各種の取組を進めている。
- ③栄養教諭や養護教諭が中心となり、PTA活動と連携を図りながら、望ましい食生活に関する情報提供を継続する必要がある。
- ④校長は、学校評価の結果の公表にあたり、食育に関わる生活改善の必要性について家庭や地域への啓発に努めるとともに、教職員が多様な実践の方法を学ぶ機会を提供する等、意識改革を継続する必要がある。

## 2 研究協議 (7グループによる討議・発表)

### グループ協議Ⅰ 【KJ法による課題整理】

### グループ協議Ⅱ 【課題解決策と校長のアプローチ】

#### (1) 討議の柱1

児童一人一人が望ましい生活習慣を身に付けるために、校長はどのような指導性を発揮するか。

#### 課題1「体力向上」

- 校長は、あらゆる機関と連携し、メディアコントロール(TVやPC等の依存時間制限)に取り組む必要がある。
- 校長は、体育の授業を充実させることが最も重要である。
- 校長は、個人差解消に向けた運動の習慣化に着手すべきである。(チャレンジタイム、体力テスト、一輪車等)

#### 課題2「生活習慣」

- 校長は、「生活リズムチェックシート」を有効活用し、家庭とその結果を共有しながら改善を推進すべきである。
- 校長は、児童の実態を把握し、教職員の問題意識や保護者の当事者意識を高めていくことが大切である。

#### 課題3「家庭との連携」

- 校長は、各種調査等の結果を分析し、分かりやすく保護者に情報発信することが重要である。

#### (2) 討議の柱2

児童一人一人が自分の体と向き合い、バランスの取れた食習慣を身に付けるために、校長はどのような指導性を発揮するか。

#### 課題1「給食指導」

- 校長は、ビジョンを経営方針に明示するとともに、情報収集と発信に努め、教職員の意識高揚を図る必要がある。
- 校長は、給食時間についても実際に自身の目で見えて状況を把握する必要がある。
- 校長は、「食に関する指導の全体計画」を見直し、栄養教諭の専門性を生かす活用方法を検討する必要がある。

#### 課題2「アレルギー対応」

- 校長は、市町村教委と連携し、食物アレルギーの詳細な対応マニュアルを作成しておく必要がある。
- 校長は、子どもの症状の違いに応じるために、入学前から情報収集と対応策について研修を深める必要がある。

#### 課題3「保護者との連携」

- 校長は、幼保小中の連携の視点から「生活リズムチェックシート」を共通に実施することにより、兄弟姉妹のいる保護者が納得するとともに意識を高める傾向にある。

本分科会では、事前にKJ法による課題整理が周知されており、参加者が自校の課題やその解決策について準備して臨んだため、非常に深まりのある有意義な協議ができた。

## Ⅲ ま と め

### 1 視点1 健康教育の推進

#### (1) 学校経営での位置付け

学校経営や教育課程における位置付け、さらには校内体制及び全体計画等について、健康教育を学校全体の取組として推進していくためには、経営方針に健康教育を重点として取り上げ、校長としてのビジョンを明らかにし、校内はもとより、家庭・地域・関係機関など外にもしっかりと情報発信していくことが大切である。

#### (2) 体育授業の充実

体力の向上については、やはり体育の授業がその中核となる。ねらいをしっかりと押さえ、運動量が確保された授業を展開するための指導力を身に付ける研修は欠かせない。また、より専門的な指導を子どもたちに提供するためにも、体育専科教員の活用は極めて有効である。中学校体育教員や外部専門家を招いた研修やアスリート・地域人材の活用なども有効な手段となる。

#### (3) 家庭・地域との連携

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の学校質問紙と学校の体力平均値との関係を分析した結果から、地域や家庭との連携・協力が密に行われている学校ほど体力平均値が高いことが示されている。今後とも様々な機会を捉えて、健康な生活を営む上で「体力向上」が重要であることを、学校・家庭・地域が共有することが大切である。

#### (4) 望ましい生活習慣づくり

生活の基礎は家庭にあるが、家庭の教育力に課題があるところも少なくない現状にある。そのため、学校と家庭の連携は必須であり、「生活リズムチェックシート」の結果を共有しながら改善に向かうことが求められる。生活実態調査等の分析結果を分かりやすく家庭に発信し、生活リズムの向上が健康の維持や体力の向上に密接に関連することの理解を得ることが重要である。

#### 【視点1に関わる課題】

- ①家庭では、安易な送迎はせず、極力歩かせるようにする。
- ②行政では、伸び伸び運動ができる公園等の整備をする。
- ③学校では、校舎内外に運動がやりたくなるような場を作る。また、継続的な体力向上の取組がなされるように教育課程を見直し、その時間確保に努める。

### 2 視点2 食育の推進

#### (1) 家庭や地域との連携

食育の取組についても、学校や子どもたちのみならず、保護者の意識を変革していくことが重要である。「校長だより」等で意識付けを図ったり、PTAや地域との連携をさらに強固なものとしたりするなど、継続的な取組となることが大切である。

#### (2) 食物アレルギーへの対応

今後、増加傾向にある食物アレルギーについては、命に関わることとして重く受け止めなければならない。学校では情報共有のもと、緊急時の対応を確実なものとしなければならない。平成27年に文部科学省より「食物アレルギー対応指針」が出され、学校が取るべき主な対応が示されている。

- ①食物アレルギー対応に関する基本方針策定
- ②組織で対応し、学校全体で取り組む
- ③研修の実施
- ④保護者との連携（学校医など医療機関との連携）

校長のリーダーシップのもと、食物アレルギーに対する組織や対策を早急に整備しなければならない。

#### 【視点2に関わる課題】

- ①食育に関する指導の充実を図るために、教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間などとの関連を図った教育課程を編成する必要がある。
- ②食に関する指導には、栄養教諭の存在は大きいですが、全ての学校に配置されていないため、巡回指導の充実や関係機関との連携、外部人材の活用などが課題である。
- ③残食の情報発信なども含め、学校給食の在り方、給食指導の重要性等を改めて認識する必要がある。

### 「第10分科会に参加して」

釧路市立山花小学校 濟藤和彦

第10分科会では分科会の趣旨説明と研究発表を受け、討議の柱と二つの視点をもとに、グループ討議を取り入れた参画型の研究討議が行われました。

趣旨説明では、これまでの3年間にわたる大会の成果と課題を集約し、分科会での研究協議の方向性がわかりやすく説明されました。研究発表では、釧路市教育推進基本計画の下、釧路市小中学校校長会が3か年にわたって取り組んできた「生活リズムチェックシート」を活用した取組や食物アレルギーに対する危機管理システムの実例など、「健康教育」及び「食育」に係る具体的な実践が発表されました。そして、これらの取組を推進する際、家庭や地域との連携や協力を図るための校長のリーダーシップの在り方が再確認されました。

グループ協議では、各学校での実践を交流しました。地域の実態や学校規模には違いがあっても、校長が指導性を発揮し、教職員の意識を高め、一丸となって取り組むことの大切さを確認することができました。

これからの学校経営に対する意欲と多くの具体的な手立てを得ることができた大会となりました。